



01-02-07 — 乳児の“かぶれ”(口周囲) —

赤ちゃんの皮膚は、大人に比べて薄く(=血液が透けて赤く見えるから“赤ちゃん”)、“よだれ”などの刺激にも非常に弱い状態です。また、生後2ヶ月頃までは、お腹の中でママからもらっていたホルモンの影響がまだ残っているため、脂分の多い肌(=脂性肌/清潔にしないと、頭や顔に湿疹がひどくなる/“乳児湿疹”稿で説明)で保護されていますが、生後3~4か月頃になると、ホルモンの影響が無くなり、“赤ちゃんの時期”とは反対に脂の切れたカサカサの乾燥肌(=“外からの刺激に弱く、かぶれやすい肌“)へと変わってしまいます(=“赤ちゃん石鹸”稿で説明)。

また、生後2か月を過ぎた頃には、唾液(だえき=ツバ)も多くなりますが、唾液を飲み込む力はまだ弱く、歯も生えていない(=前歯は、唾液が流れ出さないよう防波堤の役目もします)ために、唾液が口から流れ出てしまいます(=“よだれ”)。口周囲の皮膚に少しでも異常があると、流れ出た“よだれ”が空気中のゴミやバイ菌などと混ざり 刺激をして“かぶれ”(=接触性皮膚炎)を作ります。つぎに流れ出た“よだれ”も、その荒れた部分を刺激して、口周囲の“かぶれ”がドンドン広がる・・・という状態に入ります。“よだれの多い時期(=月齢)”には、「治った」と思っても、また“かぶれ”を繰り返すことも多いのです。

しかし、成長してよだれが出なくなる(=1歳過ぎ)頃には、徐々に炎症も収(おさ)まるのが普通です。その為、“よだれが多い時期(=月齢)”に、皮膚にダメージがある場合(その程度にもよりますが)は、次々と来る“よだれ”から皮膚を護るため、ワセリンなどで油の膜を作って一時期逃げることも必要です。

一方、“よだれ”を拭き取るときにも注意が必要です。しっかり拭き取ろうとしてゴシゴシすると皮膚にダメージを与えてしまう事があります。皮膚を傷つけないよう、濡れた柔らかいタオルやコットン等であまり強く擦(こす)らないで“叩く”ようにやさしく拭き取ってください。口周囲に“かぶれ”があるような場合は、“よだれ”を拭き取ったあとに、またワセリンなどを塗ることも忘れずに！

しばらく続けても良くならない場合は、頑張らないで小児科医か皮膚科医に相談してください。